

H27年度JAQG活動報告会アンケートでの主要なコメントとその回答

JAQG幹事会

コメント等	回答
<b>2. 知りたい内容がカバーされていましたか？</b>	
投票ドラフトの全文を見たい。改正部分の抜粋ではなく、投票ドラフト全体情報として流してほしい。ISO9001でもDIS/FDISの全文を手に入れることができ、検討に役立つ。	IAQGでは投票ドラフト全文は規格改正チームメンバー及び(投票用に)IAQGの規格投票権を有する組織のみの公開となっています。著作権の関係から同規格の原案は発行前の段階では公開できないことになっております。
2015年10月の説明会から、もう少し進んだ話が聞けると思っていたが、「模倣品」と「市場流通品の取扱い」についてJAQGとしても方針が決まっていなかったのか、詳しい話がなかった。	「模倣品」については、配布資料 2.2-20頁に記載の通り、「模倣品の返却禁止に対する要求事項は削除」されております。時間制約上全ての変更箇所説明は出来ませんでした。10月説明会(調整ドラフト)時点からの変更内容は主に赤字で示しましたのでご確認ください。
9001/9100リスク及び機会への取り組みについてもう少し詳しい説明を聞かせて頂きたい。	現在ウェブサイトに掲載中の展開支援文書と訳版に、当該事項を含め今回の改正で特徴的な事項の説明がありますのでご参照ください。
<b>3. 本日の報告内容に対するコメント:</b>	
JIS Q 9100:2016版の3.1模倣品の対応の例を紹介して欲しい。アメリカでは模倣品が発見されるとメンバー間で共有される仕組みがあると聞いている。日本でも出来ないか。	模倣品については、SCMHが発行されていますのでご参照ください。模倣品情報の共有の仕組みについては、現時点で予定はございませんが、必要に応じて検討致します。
OPMT活動進捗の赤信号が2項目ありますが、基本的に認証機関に影響があるのであって、我々に直接影響はないと考えて良いのでしょうか。(何かコメントが欲しかったですが、キャッチアップは?)	OPMT活動進捗報告の2件の赤信号については、いずれも審査員の力量及び研修コースの基準である9104-003改定版の発行が当初の計画より大幅に遅延していることによるもので、認証機関等の関係機関の対応に影響を与えますが、認証された組織に直接的に影響を及ぼすものではありません。また、9104-003改定版で規定される新たな力量の妥当性確認プログラム(仮称)の開発も要するため、9104-003改定版が発行されてもその適用には相当の時間を要することが予想されます。そのような状況からIAQG OPMTとしては、AQMS:2016版による認証の移行作業を優先に進めることとしており、9104-003改定版の適用がAQMS:2016版による認証の移行作業に支障を生じないように9104-003改定版の移行規定を制定する予定となっています。
<b>4. 報告会全般について満足されましたか？</b>	
JIS Q 9100:2016のより詳細な動向が報告されるものと期待していた。	現在、改正作業中であり、改正内容については、メンバー向けに公開されます展開支援文書(日本語版)等もご参考頂きますようお願い致します。JIS Q 9100の発行計画については認証制度の概況にて説明を行ないましたので当該資料をご確認ください。
JIS Q 9100改正に対して、移行のための準備等について、もう少し詳しく議題があればなお良かった。	移行期間については、認証制度の概況にて説明を行ないました。準備内容は組織様毎に異なりますので詳細説明は致しかねますが、「実施における留意事項」を規格展開支援文書(IAQG作成、翻訳版をJAQGメンバーページにて公開)に記載しておりますのでご確認ください。
<b>5. JAQG活動の方向性/活動内容に満足されましたか？</b>	
APAQGの中でのJAQGの地位は下って行くのでしょうか。	これまでのIAQG活動への貢献を継続し、APAQG内での存在感を維持できるようこれからも活動していきます。なお、APAQG内の活動が活性化し、IAQGへの貢献が増えるとともにアジア・太平洋地区の品質があがっていくことはJAQGとしても歓迎しています。
9100の認証スキームは国内展開されているが、今後国内での9110、9120のスキーム展開を検討してもらいたい。	過去に実施したアンケートでは9110/9120に対する認証のニーズが確認できませんでした。今後ニーズが明確になった段階で検討して参ります。
<b>8. JAQGとして取り組んで欲しい活動項目があれば記入してください。</b>	
・【特殊工程】Nadcap取得維持のための支援等を具体的に提言して欲しい。	サプライヤ様によって作業されている内容が異なり、個別の事情もあることから、Nadcap取得維持のための具体的な提言等は困難であり、現時点では考えておりません。特殊工程WGでは、Nadcap 日英対訳版の準備やPRIへの意見提言等を通じて、サプライヤ様のNadcap取得維持をサポートしてまいります。
JIS Q 9100未取得の材料メーカーの認証をJAQGでリードして取り組んでいただくと材料選択の幅が広がると思います。可能でしょうか。	特定の企業、カテゴリに対するJIS Q9100認証の取得に関しては各社契約元の要求事項によるものと認識しています。JAQGでは引き続き業界での品質を高めていくため、推奨事項として会員内外の企業の皆様へのJIS Q9100取得のメリットを訴求してゆきます。
特殊工程: 重工以外の会社においてNAS410規格に基づく要員育成については非常に時間と金がかかるのが現状です。ぜひ日本版NANDTBの推進をお願いしたい。(海外規格のため、ハードルがいろんな意味で高い！)	非破壊検査員育成関連マターについては、活動説明会でご説明させて頂いた通り、平成27年度特殊工程WGでの基礎的なスタディ結果を活用し、内閣府殿/経済産業省殿のワーキンググループでの検討を経て、現在、経産省殿の当該検討分科会に業界各社が直接参加するスキームで諸検討や関連するアクションが実施されています。ここでは、非破壊検査員育成のための体制整備について、日本版NANDTB設立検討に限らず、幅広い検討が実施されています。JAQG特殊工程WGとしては、本件についての検討作業は完了しておりますが、今後、業界各社がこの分科会に参加するスキームで、検討が実施されていくこととなります。
審査員増員方法の具体策について検討してほしい。	今後JAQG内だけでなくAB,OB様等関係者にも適宜ご意見ご協力をいただきながら進めていきたいと考えています。
・過去の和訳済SCMHガイダンス文書の再見直しは行わないのか。	IAQG版とは同じ内容となっています。IAQG版の内容が見直しが必要なものは、今後IAQG PSCIチームに提言していきます。
NADCAP認証取得の要否、又、要の場合の取得要件が、人により見解が異なり、混乱している。明確なガイダンスが欲しい。(小生の理解力欠如が原因かも知れないが・・・)	Nadcap取得の要否/取得要件については、最終顧客であるNadcapプライムにより決定されます。該当する顧客へお問い合わせ下さい。
SCMH⇒ベンダーに対する第三者監査については何を参照したらよいのか。	SCMH4.4章二次サプライヤ管理が参考になると思います。
要員能力が縮小方向でさびしい限りです。力量管理については、国との関係も有り難しいかもしれませんが、続けた方が良かったのではないのでしょうか。(日本の規格を世界で使える様に出来るのでは?)	BoKの開発プロセスを検討した結果、日本独自活動として、チームでリソースをかけて日本の産業界のみを対象としたガイダンス文書を開発する段階で無かったこと、また現時点でもIAQGとリンクした国内でのBoK開発はまだ検討段階であったことから活動停止を決定いたしました。なおBoKが政府/業界レベルの要求となる場合、または将来、IAQG内で再PCAPの活動を改めて開始する場合は再度検討します。
カスタマーサポートに対する品質マネジメントについては何を参照すればよいのか。	IAQGのSCMH 6.1章Product Entry Into Serviceが発行されました。近々和訳版も発行予定です。こちらをご覧ください。
<b>9. SJAC規格について、要求事項の明確化・強化等の改善が必要と思うものがありましたら、規格番号と理由等を記入願います。(規格番号については、規格検討WG報告ページを参照願います。)</b>	
9100 要求事項の判りづらい力所の明確化は業界全体に必要なと思います。	規格改正に際して、IAQGではの展開支援文書を公開、JAQGメンバーに対してはその翻訳版を公開しております。また、規格改正発行に合わせて説明会を開催する予定です。他、不明な点がありましたら、JAQG規格WGにお問い合わせください。
SJAC9110「航空分野の整備組織に対する要求」 SJAC9120「航空分野の販売業者に対する要求」 今後のLCC台頭等による国内MROビジネス活況に対応して、これらの2規格について「JIS化」してこの分野の認証の仕組みを強化していく。日本人による日本語によって「9110」、「9120」の認証取得を可能とする。	過去に実施したアンケートでは9110/9120に対する認証のニーズが確認できませんでした。今後ニーズが明確になった段階で検討して参ります。

H27年度JAQG活動報告会アンケートでの主要なコメントとその回答

JAQG幹事会

コメント等	回答
<b>10. その他 要望・コメントがあれば、以下にご記入下さい。</b>	
品質記録の電子化とそれに関する現実について、以前JAQG殿よりガイダンス資料を頂きました。そこから呼ばれるJIS規格(JIS Z 9016/9017)等に体制を構築すればよいという理解はできましたが、これらの内容のうちどこまで対応するかが悩ましいところです。航空宇宙工業界としてミニマムレベルの内容を明確にするため何らかの指針/規程があると大変助かります。	(JIS Z 9016/9017はそれぞれ6016/6017の間違いと推定) JIS Z 6016にもスキヤンの解像度等記載されており指針として十分な内容であると考えています。
9100:2016第3者認証移行はISO 9001:2015後3年(2018/09/14)と認識していたが、説明資料2.4-6では2017年6月15日までとなっています。例えば、再認証/サーベイランス審査と同時移行の場合、2017.6.15ではJIS Q 9100:2009で審査できないということでしょうか？	以下の内容がIAQGマドリッド会議で合意されております。 「2017年6月15日以降、全ての9100/9110/9120に基づく初回認証審査、サーベイランス及び再認証審査は2016版に基づき実施されなければならない。」 従って、2017.6.15以降に実施される審査では、JIS Q 9100:2009に基づく審査を実施することはできません。
OASISのISMSの件 一部の認証組織よりOASISのセキュリティが崩壊したらデータが全世界に流出してしまうので、OASISに登録することを大変心配しているという声がある。OASIS登録組織にセキュリティの現状を説明して頂きたいと思います。	OASISデータの開示レベルは、強固なセキュリティレベルを確保しており、一般ユーザー/認証取得組織管理者/認証機関管理者との階層で管理されているため、一般ユーザー権限で全てのデータにアクセスできるものではありません
OASISの分かりやすい日本語版利用マニュアルがあればJAQG-WGとしてUPしてほしい。 登録内容の変更でよく分からなく苦労したことがありました(担当変更、パスワード再発行)。	JAQGホームページに関連資料としてOASIS関連資料(操作マニュアル等)を掲載しておりますので、ご参照ください。
力量評価の考え方について、Boeing Audit時に議論(見解の相違)が生じる。 BoK開発の中止は残念。	BoKの開発プロセスを検討した結果、日本独自活動として、チームでリソースをかけて日本の産業界のみを対象としたガイダンス文書を開発する段階で無かったこと、また現時点でもIAQGとリンクした国内でのBoK開発はまだ検討段階であったことから活動停止を決定いたしました。なおBoKが政府/業界レベルの要求となる場合、または将来、IAQG内で再PCAPの活動を改めて開始する場合は再度検討します。
小職は検査機関の一員でJISQ9100の審査を担当しています。航空宇宙審査員になるためには、JRCAでISO9001審査員の認定を受けた上でテクノファが実施するAATTコースを修了・合格しなければなりません。しかしながら、最近のAATTコースは、例えば12人受講して合格者は1~2名という状況です。これでは航空宇宙審査員が育たず、JISQ9100:2015への移行も十分に審査できない状況だと思います。AATTコースは、プレクサク社の教材に基づいて研修・試験が行われますが、可否の採点はブラックボックスです。たださえ合格者が少ないのに、不合格になった採点結果が判らないのは、情報公開の時代にあって理不尽です。JAQGの力で、不合格なら不合格になった理由が判るよう働きかけ、次の対策が取れるように働きかけてください。	現在の研修コース(AATT)の可否の採点がブラックボックスである点については、過去にJRMCOとしても問題提起しており、IAQG OPMTの研修コース開発チーム内でも検討されましたが、残念ながら改善されず、現在に至っています。今後の研修コース開発では新たに開発業者選定を行う予定であり、その仕様についても改めて検討することになると思われますので、その際にこれまでの教訓を活かすようにJRMCOとしても開発作業に参加していく予定です
JIS Q 9100:2016の審査が2017年6月15日以降必須となること。規格(JIS Q 9100:2016)発行が10月となっているが、できるだけ早い時期(規格発行と同時期)に解説書や取り組みの具体例を載せた書籍等を発行して欲しい。もしくはセミナー等を開催して欲しい。(規格発行後すぐに運用開始しないと移行審査に間に合わない)	規格発行と同時にIAQG作成の展開支援文書の翻訳版もJAQGメンバーへの公開を計画しております、併せて、説明会も開催も計画しております。
人材育成は早いうちが良いと思いますので、大学と連携して教育カリキュラムを組み込んだりしてはいかがでしょうか？	貴重なご意見ありがとうございます。必要に応じて大学との連携なども活動の一つの切り口として視野に入れていきたいと思っています。
9項の補足 現在、JQAにてAEA審査員として審査活動中ですが、前職(防衛省海上自衛隊)にて、航空機整備、航空補給の実務経験から、当該分野における「日本の強み」を今後MROビジネスとして国策とのベクトルを整合して、大きく発展、成長させるための一助として、AS9110、AS9120のJIS化を得ることは極めて有効であると思料しております。今後、F35のアジア・太平洋エリアでの最終組立→修理・整備、またANAホールディングの沖縄への展開等MROビジネスの芽は伸び始めていると思います。	過去に実施したアンケートでは9110/9120に対する認証のニーズが確認できませんでした。今後ニーズが明確になった段階で検討して参ります。
9100 :2016のスムーズな移行のため、IAQG 9100 :2016(4月)の翻訳版の提供が(参考として)あるとありがたいです。	IAQG 9100の翻訳版はJIS Q 9100となります。JIS Q 9100は、規格そのものとなり、JIS Q 9100改正原案作成委員会により作業が進められ、また、著作権の関係から同規格の原案は発行前の段階では公開できないことになっておりますが、変更内容等は展開支援文書等をご参照ください。
要員能力WGが解散となったのは残念です。	BoKの開発プロセスを検討した結果、日本独自活動として、チームでリソースをかけて日本の産業界のみを対象としたガイダンス文書を開発する段階で無かったこと、また現時点でもIAQGとリンクした国内でのBoK開発はまだ検討段階であったことから活動停止を決定いたしました。なおBoKが政府/業界レベルの要求となる場合、または将来、IAQG内で再PCAPの活動を改めて開始する場合は再度検討します。
午前中への入会オリエンテーションで、JAQG入会方法についての説明があれば良かったと思います。 9100規格の改正動向の中で、2009年版と2016年版の対比表を入れて、2009年のどの要求事項が2016年のどの要求事項に移動したのか、わかる様に説明してもらえると良かった。	・9100の2009年版ー2016年版の対比表は「9100規格 2016年版改正 展開支援文書」としてJAQGメンバー向けに公開しておりますのでご参照ください。説明方法については、今後改善検討して参ります。
9100説明会を定期的に開催してほしい。	改正の際の情報共有のため、説明会を開催しております。定期的な開催の要請がJAQGメンバーから多くなれば開催を検討致します。